

# エルモンヒラタカゲロウ

*Epeorus latifolium*

ヒラタカゲロウ科

## 名前の由来

成虫の前ばねの基部にL字の紋があるため。ヒラタとは幼虫期に著しく偏平という意味である。カゲロウは成虫での寿命が短いため、はかなく消える陽炎になぞらえたとされている。

漢字名：L紋平蜉蝣



エルモンヒラタカゲロウ（幼虫）

## 形態的特徴

**幼虫の特徴：**中型、体は著しく偏平で、2本の長い尾がある。大小の赤紫色の点紋がエラの半分以上に散在する。

**成虫の特徴：**体長約9mm、前翅長約11mm、尾角長約33mm。淡濁黄色。幼虫と同様にオスの前肢は非常に長い。

**類似種と見分け方：**タニヒラタカゲロウ。

タニヒラタカゲロウは赤紫色の点紋が鰓の外縁にそって散在する。

## 生息環境・分布

上流から中流域にかけて。流れの緩やかな瀬の石表面に生息する。

環境省・国交省水質調査：「きれいな水」（ヒラタカゲロウ）の指標

**分布：**国外分布は、不明。国内分布は、北海道～九州。北海道内では、普通に分布。

十勝地方では、普通に分布。

## 食性・他の生物との関わり

藻類を餌とする。

魚類などの餌となる。



エルモンヒラタカゲロウ（成虫）  
(撮影：宮下 力)

## 繁殖生態・寿命

一年一化（1回発生）。交尾を終えたメスは水面に着水し、産卵する。

## 興味深い話

■ヒラタカゲロウ科の中で最もよく見られる代表的な種である。

■他のカゲロウ類がじっとしてられない流れでも著しく偏平な体型のため、石にへばりついて生活できる。

■カゲロウは、儚い物の例えにされてきた通り、羽化後の寿命は1時間～2週間（多くが1～2日）と大変短い。そのため、羽化や繁殖行動は一斉に起こる。

## 配慮事項

付着藻類が適量に繁茂できる、礫底流水環境が重要。

## 生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
卵期・幼虫期	■											
成虫期						■						

## 参考文献

「フライフィッシャーのための水生昆虫小宇宙Part I」 刈田敏 つかり人社 2000

「アングララーのための水生昆虫フィールドノート」 宮下力 出版文化社 2000

「日本産水生昆虫検索図説」 川合禎次 東海大学出版会 1995

「川の生物図典」 財団法人リバーフロント整備センター 1996

「水生昆虫アルバム」 島崎憲司郎 フライの雑誌社 1998

「水生昆虫の世界—流水の生態」 大串龍一 東海大学出版会 1981

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) フシ・タカ